

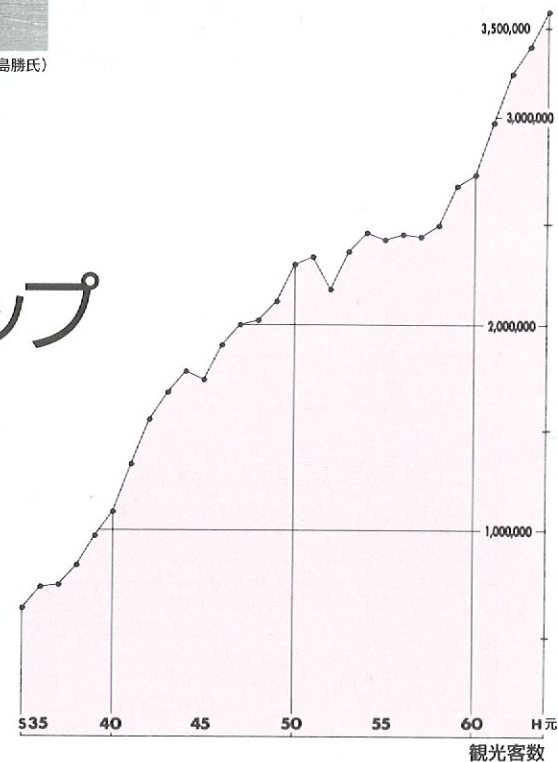
国立公園指定当時の天草(現在の五号橋辺り)(写真提供:麦島勝氏)



# 受け入れる観光から 打って出る観光へ。 素材を生かしてステップアップ

上島、下島、大矢野島など大小二〇の島々からなる天草(写真上)。さんさんと輝く太陽に水面がきらめき、緑豊かな美しい島々は、昭和三十一年に国立公園に指定されました。世界最大のカルテラ、噴煙を上げる火口、雄大な自然がパノラマのように広がる阿蘇国立公園とともに、熊本のと海は、多くの観光客を魅了してきました。

さて、下の写真は、昭和五十七年に始まった熊本県の大規模観光キャンペーン第三弾「超魅力くまもと」(昭和六十三年度、平成二年度のポスター)です。受け入れる観光から打って出る観光へ。天草や阿蘇をはじめとする素晴らしい観光素材を、より多くの人にいるような形で楽しんでもらうことをめざしたキャンペーンや豊富なイベントも効を奏し、平成元年度の観光客数は三千五百万人を突破しました。今後は、余暇滞在型観光の増加という時代性の中で、長期滞在型観光のパワーアップを旨とした、豊かな自然環境と都市機能が融合した熊本らしいリゾートづくりが進行中です。



大きな休日。くまもと



ボーツとしよう。

くまもと  
超魅力計画

超魅力くまもと

「超魅力くまもと」キャンペーン

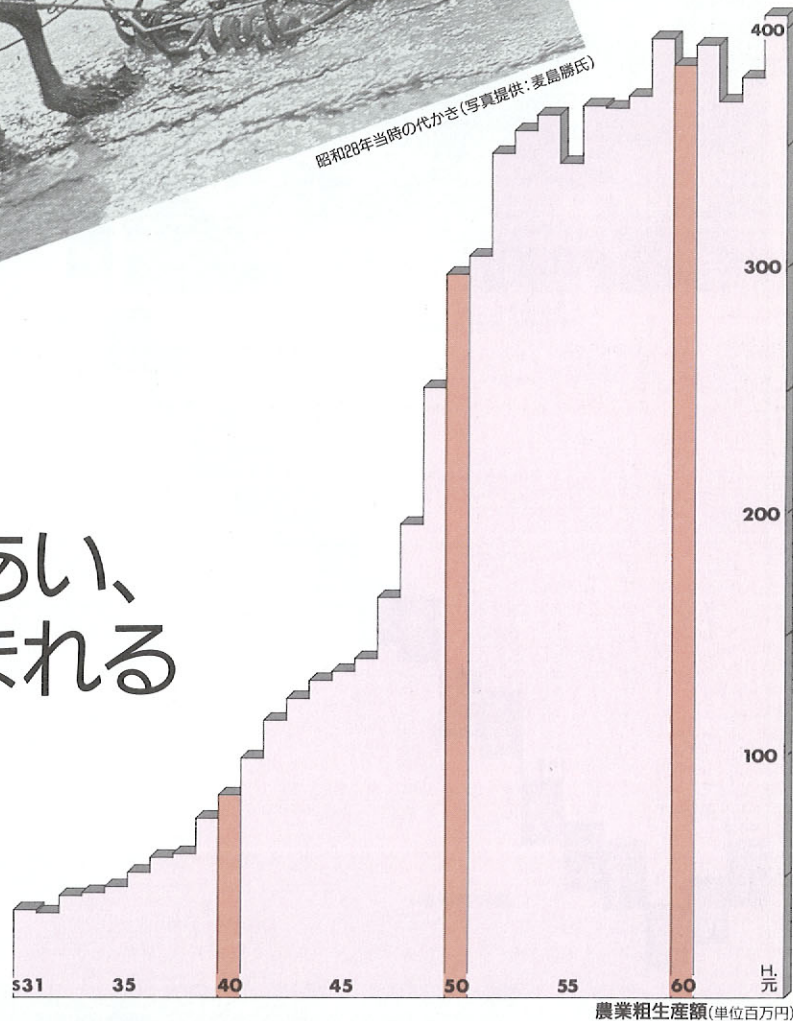


昭和28年当歳の代かき(写真提供:麦島勝氏)

# 消費者とのふれあい、 研究開発から生まれる 熊本農業

今では見られなくなった馬を使つての代かきの様子は、昭和二十八年に撮影したもの(写真上)。戦後も多くの農業は、安定した食料供給を目指して、何より生産量の拡大が第一の目標でした。しかし機械化が進む前のこの時代、昔ながらの農機具を使い、人と牛馬が一体となつての労働は、多くの時間と労力が必要としたものでした。

時代は移り、下の写真は平成元年に開所した熊本県農業研究センター。バイオテクノロジーの研究やコンピュータによる農業技術情報のネットワーク化を進めており、さながら熊本農業の頭脳中枢といったところです。すでに受精卵移植による優良牛の生産は全



農業粗生産額(単位百万円)



農業研究センター

国でもトップクラス。生産額日本一を誇る宿根カスミソウの栽培に実用化された無病苗の生産技術など、高付加価値農業の実現に大きく貢献しています。生産を拡大することが先決だった物不足の時代から、高品質・高付加価値農業の時代へ。求められるものが大きく変わる中、農業イベントなどで消費者と生産者がふれあい、健康志向など消費者のニーズに応じた熊本型有機農業など時代に対応した新しい農業が目指されています。

注：代かきー田植え前の田に水を充たし、鍬などで土をかきながらして田面を平らにする作業。